

おおむた・市民党代表質問

吉田 康孝 議員

行政と地域のさらなる連携で地域づくりを推進せよ

昨年の近代化産業遺産の一斉公開と同じ日に、行政と県境の商店街とが連携したイベントが開催され、行政と市民との協働の姿が見られる一方、本市の地域力は衰退しているように感じられる。これは行政の責任だけではなく、本市独自の地域のあり方にも起因していると考える。

地域づくりの現場においては、行政の努力は認めるものの、その成果が見えない状況であり、さらなる行政と地域の連携が重要であるとして、次のような質問があった。

市長の政治姿勢

地域づくり

問 地域力の衰退が進む現状について、やむを得ないと考えるのか。また、地域の要望が多様化する中、従来の縦割り行政では対処できない面が多いと思うが、今後の対応を聞きたい。

答 地域コミュニティの再生と活性化は市政の重要課題と認識しており、地域自治組織形成の理念や目標を明確化し共有化できるよう地域コミュニティ基本指針の策定に取り組んでいる。同指針策定委員会では、市民意見を反映した素案を論議し原案をまとめ提言していただくが、その後はパブリックコメントや市長が地域に出向き説明するなどしてさらに幅広い意見を聞き、その反映を含め再度、同策定委員会で協議し、十一月までに最終案を決定する予定である。

決定後は、地域自治組織の形成促進に、できるだけ早く必要な支援をしたい。

地域自治組織の形成や運営の支援に当たっては、縦割りではない行政側の総合窓口機能の強化等もあわせて進め、推進体制の確保・構築を図っていきたい。

観光都市によるまちづくり

問 世界遺産候補と既存観光資源とのリンクについて考えを聞きたい。



春の風物詩 三池初市

答 本市には、おおむた大蛇山まつりを初め、普光寺の臥龍梅や定林寺のアジサイ、三池初市など数多くの観光資源に加え、宮原坑を

含む九州・山口の近代化産業遺産群が、世界遺産の国内暫定一覧表に掲載されたことで脚光を浴びており、これから、本市の大きな観光資源と認識している。

今後、世界遺産候補の構成資産も含めた新たな観光ルートの開発、近隣の観光地とのネットワーク構築により一層取り組んでいく。

環境保全によるまちづくり

問 市全域で耕作放棄地を含む休耕田・竹林・森林・里山等を整備する環境保全によるまちづくりが重要だが、環境活動団体や地域の公民館との連携、情報収集等はどう取り組むのか。

答 耕作放棄地等の解消に努めるには、地域住民や地域で活動する団体の理解と協力のもと、市民と行政がそれぞれの責任と役割を自覚し、よきパートナーとして連携を図り、互いに協力しながら進めることが重要と考える。

また、各地域で活動する各種団体との連携及び情報収集・発信は、まだ十分な対応ができていないが、今後は地域の公民館や環境保全に取り組む各種団体等の実態を把握し、情報を共有しながら耕作放棄地等の対策に取り組んでいきたい。

地方独立行政法人大牟田市立病院

問 同病院の中期計画を実行するに当たっての決意を聞きたい。

答 中期計画の認可後すぐに年度計画を策定し、各部門がより高い目標を掲げて取り組むことで年度計画、ひいては中期計画を達成すると同時に、地域の中核病院として地域完結型医療の提供に最大限努力していく。今後の地域医療の充実のためには、医師の確保や地域医療連携など、病院の努力だけではなし得ないこともあるため、行政、議会及び地域住民が一体となって地域医療を支えてほしい。